

## =第23号=

発行:2005年11月1日

編集:立命館大学応化会事務局  
編集責任者:北尾 舒彦

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学応用化学系事務室内

TEL. 077-561-2658

FAX. 077-561-2659

e-mail oukakai@st.ritsumei.ac.jp

RITS  
立命館大学

## 応化会ニュース

## 近況報告

応用化学系前期学系長 小堤和彦



応化会会員の皆様には、お元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。

本二〇〇五年度は、応用化学科では学則定員九五名に対して一三〇名、化学生物工学科では学則定員八〇名に対して一〇一名の入学者を迎え、ここ数年では際立った入学者であり、あわただしいスタートとなりました。

応用化学科では松田十四夫先生が三月末で定年ご退職になられました。四月からは特別任用教授として講義担当をされており、引き続き理工学部・応用化学系の教育にご協力いただいております。また、情報理工学部生命情報学科ですが、二〇〇三年度までは理工学

部化学生物工学科に在籍されておられた菊池正和先生も三月末で定年ご退職になりました。菊池先生も特別任用教授として応用化学系の講義をご担当いただいております。

四月より笠原賢洋先生を東京農工大学より化学生物工学科へお迎えいたしました。これまで化学生物工学科にはなかつた植物分子生物学という分野での笠原先生のご活躍を期待ください。

理工学部のびわこ・くさつキャンパス移転から一〇年を經過し、また二〇〇四年度からの情報理工学部新設にともない懸案となつて

おりました大学院理工学研究科の改革が昨年度後半より始まりました。第一段階として博士課程前期課程の改編が行われることが決定しました。これまで博士課程前期課程には、数理科学専攻、物質理工学専攻、環境社会工学専攻、情報システム学専攻の四専攻があり、

応用化学系はそのうち物質理工学専攻と環境社会工学専攻にかかわつてまいりました。博士課程前期課程ではこれら四専攻を基礎理工学専攻、創造理工学専攻、情報理工学専攻の三専攻に再編し、応用化学系は創造理工学専攻の中に

設置される応用化学コースで研究・教育を担当することになっており、来年度二〇〇六年度より入学者を迎えることとなっております。これまで二専攻にかかわっていたのと比較して、一専攻のみに関与して応用化学コースとして、「応用化学」を前面に出せるのは色々な面で有利になると考えております。二〇〇七年二月から三月頃にはすでに二〇〇六年度入学者の就職活動の時期が訪れますので、その折には応化会会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

学校法人立命館が二〇〇六年四月より京都北大路に立命館小学校を開校することは皆様ご存知と思いますが、更に、理工学部応用化学系のあるびわこ・くさつキャンパスに近い滋賀県守山市にある守山市立守山女子高等学校を学校法人立命館が引き継いで、立命館守山高등학교として二〇〇六年四月より開校することが決定しました。二〇〇七年四月からは、中学校併設も計画しております。びわこ・くさつキャンパスに近いという地理的条件から、びわこ・くさつキャンパスにある四学部と立命館守山高등학교の間での高大連携ア

ドバンストプログラムが検討されております。本年度、応用化学系では多数の入学者を迎えましたが、少子化にともなう大学受験者数の減少という現実があり、志願者確保・入学者確保という観点から今後立命館守山高등학교との高大連携アドバンストプログラムも含めて、検討しなければならぬ案件が多数噴出すると考えられます。

応用化学系・応化会の一層の発展を考えて行動して参りますので、応化会会員の皆様のご理解とご支援を今後ともよろしく申し上げます。

最後に、応化会会員の皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 吉田巖様

のご冥福を心からお祈りします。



## 偉大な経営者吉田巖氏を偲んで

富田耕一

(昭和二十七年卒)

人に会うのに大変エネルギーがかかると言われて、一年余りお会いする事がなく、今年一月中頃何か気になって、実弟の吉田努氏に吉田巖氏の様子を聞くため電話を入れたところ、入院中との事で、早速お見舞いにいきたいと申ししたが、本人は喋る事も出来ないで遠慮したいとの事で、恠に残念やらあきらめました。ところが二月二十五日努氏から電話が入り、吉田巖氏が昨二十四日に亡くなった旨連絡を受け、やっぱり駄目だったかと云う思いで受け止めました。

思えば吉田巖氏との水い付合いは専門学校二年(昭和二十三年)からで、その頃一

緒にズルチンやサツカリンを造り、大阪へも造りに行っておりました。時に馬小屋で造って運くならば、馬小屋の臺の中で二緒に寝た事もありました。

吾々の卒業時期は非常に就職難であった為、吉田氏はアルバイトをしていた寺田化学工業㈱にそのまま就職して、大阪道修町へ営業に出ていろいろ情報を仕入れ、発泡剤の製造販売に踏切りました。

寺田化学が倒産した後、それ迄の得意先や販売店の後援もあり、発泡剤専門の新会社永和化成工業㈱を設立しました。その後発泡体の別会社を設立しました。

経営者になってからも、学生時代と同じ様にもうすぐ勉強家で、専門家についていろいろ経営の勉強をし、講座にも出てつぎつぎと知識を積み重ねておりました。

既存の大企業と対等に渡り合い交渉したり、台湾に進出し、中国にも三ヶ所新会社を造ったのは京都では初めてであり、吉田氏なればこそと思います。

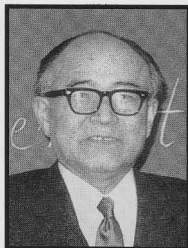
それらのために紫綬褒章を受け立派な業績を残されたのです。

あれだけよく喋った人が晩年はほとんど喋れなくなつて、余程ストレスが溜まったのではないかと思ひ、本人も悔しい思いをしておられた事と思ひます。

尽せぬ思ひは数多くあります。偉大な経営者吉田巖社長の安らかな御冥福を心からお祈り申し上げます。

## 立花精様

のご冥福を心からお祈りします。



## 飽くなき研究者魂に冥福を祈る

岡正則

(昭和四十八年卒)

去る平成十六年十二月二十五日、立花教授が他界された。私はその知らせを受けたのは翌々日の二十七日の通夜の当日であった。急な為、会社勤めの身としては直ぐにスケジュール変更が出来ず、通夜も本葬も欠席せざるを得なかった。学位論文指導も頂き、本来なら葬儀委員の一人としての役目を務めなければならぬ身でありながら非常に不義理な事であり、その事が今でも心に重く残っている。

先生の指導を受けられた方はよくご存知と思うが、先生の研究に対する執念に近い情熱には圧倒される。私が大学院生の時は殆ど病院生活を余儀なくされておられたが、



よく病室に呼ばれ指導を受けた事を思い出す。私は、御指導頂いたビタミンB<sub>2</sub>の研究が取り持つ縁で、米国アトランタのエモリー大学へ留学し、帰国後、京大化研を経て東洋紡で働くようになった。会社員になってからご無沙汰をしていたが、退職後も相変わらず入退院を繰り返していらつしやるとの噂を耳にし、京都に出張した際にお見舞いがてらご自宅を訪問させて頂いた事がある。その時、話題がビタミンB<sub>2</sub>に及んだ。驚いた事にB<sub>2</sub>アルビヒド合成酵素の遺伝子解析がされていないか調べて欲しいとおっしゃる。大変失礼ながら現役教授ならともかく、退職されてかなりの年月が経ているにも係わらず、最先端の遺伝子解析の視点から、これまでのご自身の研究課題を深化させようとするお言葉を聴くとは思わなかった。研究に対する衰えぬ情熱に敬服したものであった。

先生が最終講義で「誰も踏み入っていない新雪に自らの足を踏み入れる事に喜びを感じる」とおっしゃったフロンティア精神の継承を心に念じつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。次第である。合掌

# 塩出十一様

のご冥福を心からお祈りします。



# 塩出十一先生追悼文

花井俊彦

(昭和四十年卒)

塩出先生と言えば眼鏡をずらして眼をギョロツとさせて口が悪かったと言っ印象があったような気がする。その年は立花先生が病欠がちだったので一人で全てでなくてはという責任感があったのも事実でしたが、私が強くて優しい言葉で何とかしてやろうとするセンスをもってなかったような人間ではなかったかな。僕にとっては実験が好きだったので競争心を持って、実験者のモデルとして、先生方は仕事の都合上継続的に実験できなくても学生は実験できるから良い実験結果が得られるはずと頑張った結果として研究成果を出し研究者としてやれる自信を付けて貰った一年でした。意

見が合わないこともあったがいい目標であった。先生も若かった、朝六時過ぎに下宿を出て、帰るのは夜十二時という日が続いた時もあったが苦しかったと言う感覚はなく、楽しかった思い出がでてくる。下宿していた片桐家には迷惑をかけました。ハイキングや飲み会もあったが、そのような記憶ははっきりしない。唯、いろいろな実験手法を教わったことしか記憶に残っていない。教わった手法の内でも上手くいかなかったクロマトグラフィを卒業後の研究テーマとして選んだことが僕自身の研究者として成功に繋がった。訳がわからないことでもがむしやらに追及していけば何とかなることを教わったと思う。僕自身は十年間京都で修行してからアメリカカンザス州を持って、アメリカとカナダで十年間住んだので他人を見る基準は平均的日本人とは違っていると思うが、塩出先生はやればやっただけ正當に評価される社会であればもっと楽しい人生を送れた人ではなかったかなと思う。平成十七年一月十日に他界された。早すぎる人生であった。

# 永井外代士様

のご冥福を心からお祈りします。



# 永井先生を偲ぶ

伊藤伸一

(昭和四十七年卒)

応化会の同窓生の皆様に悲しいお知らせです。去る平成十七年三月九日に、分析化学研究室元教授の永井外代士先生がお亡くなりになりました。今年の初めに心臓疾患で入院されて、快方に向かっておられたのですが、急性循環不全により急変されたようです。満八十歳でした。翌々日(十一日)、

六十年歳の還暦のお祝いと同窓生で行ったことがありました。新年が明けた一月の日曜日に開催することで相談しました。数字の因縁とこじ付けが好きであった先生は、「老人になったお祝いだから、マージャンの老頭牌の一と九を並べた一月十九日がいいですね、チンロウトウだね」と言われまして。出席された方は覚えておられると思いますが、百名以上の卒業生に聞かれ、赤いチャンチャンコを身につけられた先生は大変にご満悦でありました。いまでもその姿が思い出されます。

金沢での葬儀に参列し、先生やご家族の皆様にお会いできました。勿論、先生は何も語りませんが、色々な場面がぐるぐる巡って思い出され、目頭を時折押さえてしまいました。

思い起こせば昭和四十六年四月、今から三十年以上も前、分析化学研究室に配属さ



# 山下大二郎様

のご冥福を心からお祈りします。



## 恩師山下大二郎先生を偲ぶ

大秦 延介

(昭和四十年卒)

山下大二郎先生が平成十七年三月二十七日に逝去されたという報を受け、愕然となりました。先生は骨折が原因で奥様と一緒に市内の介護関連施設に入居されていましたが、お見舞いに行こうと思っていた矢先の訃報でした。誠に残念で、哀惜の情に堪えません。

電気化学に関心があった私は、卒研生として山下研究室を志願しました。テーマは二次電池の亜鉛電極に関するもので、マイクロ写真版のロシア語の文献を手渡され、「これを参考にして好きなようにやれ。」と言われました。この時が山下先生とのご縁の始まりで、修士課程終了後、定年ご退職の昭和五十四年まで研究生としてお世話



になり、格別なご指導とご尽力を頂戴しました。

山下先生は昭和二十一年に母校の前身である立命館専門学校工学科に着任され、戦後間もない混乱期の立命館大学理工学部を支えてくれました。「当時は予算も設備も無く、心細い思いをした。」と語られたことがあります。そして、第五回国際電池討論会(イギリス)で講演されるなど、精力的に「焼結式および加圧式アルカリ蓄電池に関する研究」に取り組んでくれました。

先生は卒研生に対し、余計なことは仰らずに見守っておられるだけで、自主性と責任感を育てられたような気がします。研究成果は外部へ発表して広く意見を求めるというお考えもあって、学部四回生の私にも卒研結果を日本化学会で発表するという貴重な経験を与えていただきました。

「山下大二郎先生、先生は卒研伊豆旅行に気さくにご同行下さいましたね。その時の楽しそうな先生のお顔が忘れられません。

先生の教え子達は各々の分野で活躍し、年々元気で定年を迎えております。どうぞ安らかにお休みください。」

合掌

### 会員だより

## 一層の国際化を

蔡 勝昌

(昭和三十八年卒)



昭和三十八年、卒業を間近に控え、就職がまだ決まらない私を杉田教授は教え子が社長である、永和化成工業株式会社に推薦して下さいました。そして、吉田社長は受け入れて下さいました。吉田社長が亡くなった今、何故私を探ったのかを聞いておけばと思っております。当時、私は製薬会社に就職できれば、多くの製薬会社に履歴書を送りました。しかし、まだまだ閉鎖的であった時代であったため、ほとんどの履歴書は開封されずに返送されてきました。名前を見れば日本人でないことが一目瞭然であったためでしょう。日本の会社がある程度積極的に外国人を採用し始めたのは二十年後の昭和五十八年頃でした。

経済がグローバル化した今、外国人の採用は会社にとって、百利あって一害なしと思うのだが、どうでしょうか？会社がその外国人社員を積極的に戦力として活用できる環境を作り、存分に力を発揮させることが大切である。しかし、能力がなければ淘汰されるのは当然である。

私は永和化成工業株式を五年勤め円満退社しましたが、退社せず勤めていればどうなっていたか考える時があります。社長の期待に応えることができたのか、存分に自分の力を発揮できたのか。同時に二つのことを経験できないので、今になっては想像するしかありません。

日本の社会は随分開け国籍による差別は余程少なくなっていますが、外国人にとってはまだまだ不安不満があるようです。私が通っていた頃の立命館大学は一番先進的であった。その卒業生はいまやたくさん国や企業の指導者になっています。卒業生が企業や日本社会の国際化の先頭に立っていただけだと願っております。

# 定年退職に際して

松田 十四夫



することになったわけで、当時の卒研究生が温かく接してくれて、何とか一年を過ごせたことが、現在の小生に繋がったと感謝しております。

研究に関しては、神原先生の後

本年三月末日をもって立命館大学を定年退職しました。昭和三十八年三月に本学理工学部化学科を卒業し、その後助手として勤務して以来四十二年間にわたり在職してこれになります。その間、七百五十余名の卒業研究生に接し、それぞれに思い出があり、良い卒業生に恵まれたと感謝しております。断片的ですが、以下に四十二年間の一部を綴ります。

任として着任した永井外代士先生の指導で「回転白金電極を用いる分析化学的研究」を行うこととなりました。失敗を繰り返しながらやつとのことと電極が作成でき、電極の履歴現象を解消する手法を見出し、研究が出来るようになり、学会発表も出来るようになりました。種々の酸化還元剤の電気分析化学的研究を行い、クロラミンTに関する研究が、京都大学の理学博士の学位取得に繋がりました。その後、「四価鉛化合物の酸化剤、捕集剤に関する研究」、「バイオセンサーに関する研究」、「微量有機物の捕集剤に関する研究」、「マイクログラフチャンネルチップを用いる電気泳動法に関する研究」などを行ってきました。

十六年三月の「化学科卒業生懇談会」の開催にこぎ着け、約三百名の卒業生が集まってくれました。これを契機に多くの卒業生の協力を得て「同窓会発足準備会」を充足させ、昭和五十八年六月の「化学科同窓会発会式」に繋がることができました。その後、「応化会」と名称を変更し、昨年に「創立二十周年記念事業」を行うことができました。また、理工学部の各学科同窓会を連携する「理工学部同窓会連絡協議会」の発足に関わってきました。

水い大学生活の中で、学園紛争、衣笠一拠点完成、新学部、新学科開設、BK Cへの三学部の移転、文理総合インスティテュートの開設、二十一世紀COEプログラムの採択などを経験し、この間、種々の役職も経験してきました。昨年には、学校法人立命館から「二〇〇三年度教職員評価・報奨者」として表彰され、日本分析化学会からは「二〇〇四年度学会功労賞」を受賞し、定年退職時の良い記念となりました。しかし、本年三月に恩師の永井先生がご逝去されたことが、心残りです。

松田十四夫先生は、昭和三十八年三月に本学理工学部化学科を卒業になり、同年四月から理工学部助手として着任されました。その後、助教、教授と昇任され本年三月にご定年退職されるまで、四十二年の長きにわたり理工学部の教育・研究の発展に貢献されてきました。また、応化会の発会に際しても多大なるご尽力いただき、現在の応化会は松田先生の存在なしに考えられないことは會員の皆様方もよくご存知のことだと思います。

## 「松田十四夫先生のご定年退職にあたって」

白石晴樹

(昭和四十七年卒)

世に送り出さない」をモットーに学生に接し、燃え尽きたのが実感です。四月からは、特別任用教授

として理工学部在籍し、今後も大学の発展を見守りたいと考えています。

職委員長、文理総合インスティテュート環境・アザイン・インスティテュート運営委員長等を歴任され、学園の運営に関しても大変貢献されてきました。

昭和三十七年四月に「分析化学研究室」の卒研究生として配属されました。その時の指導教員であった神原富民先生から、夏頃に、大

学に残らないかとの話があり、翌昭和三十八年四月に教室助手（その後助手に制度改革）として着任しました。当時の卒研究生は三十二名、一年しか違わない学生を指導

同窓会活動に関しては、昭和五

「自分より出来る悪い卒業生は部拡充移転担当主事、理工学部就

す。

# 学生と歩んだ十年間を顧みて

菊池 正和



張ってくれた。私の研究室の活気はまさに彼のおかげであった。

私は教育に二つの考えを持っていた。その一つは「ほめて育てる」ということであった。ほめられることが大きな自信になることを、若いときに私が身を持って体験していたからである。二つ目は「テーマは与えて議論はするが、指示はなるべくひかえる」ということであった。これにはかなりの勇気がいったが、学生が私の指示を待つようになるのを嫌ったからである。学生諸君は持ち前の明るさと頑張りで、自分の考えを説明し、自ら進んで実験をした。その陰には、私の下でドクターをとった堀部智久君（現オーストラリア、ラトロープ大）と木村太地君（現奈良先端大学院大）の努力があった。彼らは立派に下級生を指導し、か

私が新設された生物工学科へ着任したのは、平成七年四月であったから、今年で九十年立命館にお世話になったことになる。それまで在職した武田薬品と旧通産省が設立した蛋白工学科研究所では、私は研究一筋であったので、立命館は初めての教育の場になった。

最初の二年間は、旧化学科から各六名の卒研究生をお預かりした。幸い三名の一期生が大学院へ進学したので、共同研究を目的に、彼らを京大、阪大、蛋白工学科研究所（それぞれ派遣した。外部の研究環境に接した彼らは、研究室立ち上げの軸となってくれた。その後、辻本善之君（現京都府大）がボスドクとして研究室に加わった。彼は向学心に満ちた好青年で、溢れる様なエネルギーで学生達を引っ

に数報掲載されたことは、私自身にとっても予想外のことであった。このように、若さあふれる学生諸君と共有した十年間は、私にとつて短く、かつ楽しい時間であった。世間では、立命館は改革の進んだ大学といわれている。しかし組織としては、会社と比べるとまだまだ見劣りがする。教員一人一人は、まるで小企業の社長のようにあるから、個々が自分の利益を主張しても無理からぬことである。

しかし、私立大学はこれから冬の時代に突入する。その逆境に打ち勝つためにも、立命館が学科学部の垣根を越えて、総合大学である利点を生かすべき時がくるであろう。

最後に、お世話になった応化会の皆様へ感謝申し上げますとともに、応化会ならびに立命館のますますの発展を祈念したい。

## 菊池正和先生の御定年退職にあたって

藤田 典久

(昭和五十一年卒)

菊池正和先生は、立命館大学理工学部がBKCキャンパスに移った翌年の平成七年四月に赴任されました。当時はちょうど、パブル

はなかつたでしょうか。

自らがはじけた時期であり、学生の就職はいきなり超水河期を迎え、若

このような情勢にありながら、菊池先生は一貫して、きちんと教

育した学生を輩出することが最優先されるべきというお考えで生物

工学科、応用化学系を牽引してこ

送りました。また、少子化に

送られました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

送りました。また、少子化に

送りました。できの悪い卒業生を

# 『応化街道』の構築をめざして

関東支部長 仲宗根 宗 督

(昭和三十五年卒)



「美しい日本の秋」の到来です。昨年十一月関東支部総会におきまして支部長に推挙され就任いたしました仲宗根でございます。浅学非才ながら「和顔愛語・先意承問」にこやかな笑顔とやさしい言葉で、先んじてその人の期待に応えるをめざします。関東支部を担うについての所信と「志」を述べ、運営継続の発展を期してご挨拶をさせていただきます。

(1)松下電器在職三十五年有余の経験を活かしたい!!松下電器本社入社以来東京支社定年退職迄の貴重な業務経験とノウハウを注入してさらなる発展と融和を計って参りたいと思います。(2)「応化街道」構築のめざすもの①関東各都県に友情のネットワークの構築(支部委員会の設置)②楽しむ往来と気楽に参加③「応化街道」は東海

道から草津街道を通じてBKCにつながる全国に交流のネットワーク化をめざしたい!!④その「志」は「友情・喜び・和親一致の協力による発展の礎(いしずえ)」にしたいと思います。(3)幹事会・会員相互のツールはインターネットによる有効活用の実を上げる。新幹線の皆さんを始め、多忙な会員諸氏との諸連絡は極力情報通信等の活用を通じて成果を高めて参りたいと思ひ、ネットワークのルール作りとの対応を進めている所です。(4)共通の校友会活動に積極的に参加!!東京を中心として開催される、新社会人歓迎会(本年は二百八十名出席、一「立命塾」(年三・四回開催される異業種交流会、ゴルフの芝楽苦会(命名者は前校友会河原会長)、女性セミナー、トレック

キング等応化会会員が自由に参加できる企画が多々あります。(5)若壮者の結合(青年の理想と社年の英知と先輩の経験を活かそう!!)立命館大学の発展に呼応して「関東支部」もその一翼を担って参る所存です。よろしくお願ひいたします。(了)

(東京校友会副会長)

# コミュニケーションの大切さ

東海支部長 小 谷 嘉 憲

(昭和三十七年卒)



仕事をしている限り、人との会話を通じて理解する、理解してもらい、協力する、協力を得る、そして結果を出す。成功するに拘らず、反省により次のステップに挑戦する。会社・部 課内の信頼と一体感、コミュニケーションをベースとしていることは国内外全く同じです。メールのやり取りだけでは無理なことです。国際化が益々進むなかで、特に若い人はこのことの大切さを忘れないで欲しい。

私、五年間(平成九年・平成十四年)自動車生産のためバンコクに勤務する機会がありました。社内での公用語・文書は幸い英語でした。彼らは会社に来ると英語の世界となります。私、一番申し上げたいことは海外に於いても、日本以上に「現地に入る」ことです。理解し合うために、会話・

指導を我慢強くくり返すことです。そのために語学力を養って欲しいと思います。更なる信頼関係は仕事以外の行事への積極的参加です。例えば、運動会・ゴルフコンペ、忘年会・結婚式・葬儀への参加でした。又、異国の習慣・礼儀を知り、相手を尊重することです。私は第二のふる里はバンコクと働いた会社だと思っています。今でも訪日する従業員・役員とは昔同様に楽しい会話をしています。

東海支部は活動できていません。しかし、先輩の支部の活動を学び、徐々に前進したいと思っています。応化会の発展を期待しています。



# 企画運営委員会報告

委員長 篠原長政

(昭和四十三年卒)

企画運営委員会は、応化会総会時に趣味のアンケート調査を行い、会(応化会ニュース第二十号参照)から開催のご案内を致します。前委員長の東正弘氏(昭和四十一年卒)のご提案により、平成十年から応化会会員の親睦を目的として、「ゴルフ・懇親会」がスタートしました。その後、アンケート調査時の「山歩き」の名称を「徒行会」と改称し、第一回の「比良徒行会」を平成十一年に実施し、現在に至っています。

これらの活動は、平成十六年七月の応化会常任幹事会において、「ゴルフ・懇親会」担当として、伴野清委員(昭和四十二年卒)ならびに「徒行会(ハイキング)」担当として、川口士郎委員(昭和四十三年卒)にお願いすることになりました。

ゴルフあるいはハイキング(またはその両方)に参加ご希望の方は、是非応化会事務局までご連絡下さい。開催のご案内を致します。一方、写真に興味をお持ちの方

も是非応化会事務局までご連絡下さい。午前九時、観電出町柳

駅改札口に全員集合。二の瀬駅をスタートして、夜泣峠から滝谷峠、貴船神社へ到着。その後は、貴船口へ行くか、あるいは鞍馬寺へ行って鞍馬温泉に入るかの選択。ライダーの一声で、出町柳へ早めに到着し、例によって、安くて美味しい店で盛り上がりました。

第十四回ゴルフコンペ  
平成十七年三月二十六日(土)  
宇治カントリークラブにおいて、篠原(昭和四十三年卒)が幹事を承り、ゴルフ懇親会を開催しました。競技方法はダブルペリアにて行い、十四名の参加をいただいたなかで、長島幸則氏(昭和三十三年卒)が優勝されました。

第十回「応化会徒行会」  
平成十六年十二月四日(土)  
川口士郎氏(昭和四十年卒)をリーダーに、十二名の参加者があ

り、総勢十三名は午前十時に京阪・宇治線宇治駅改札口に集合。宇治神社、天ヶ瀬吊り橋、天ヶ瀬

ダム、東海自然歩道から仏徳山(131m)展望台へ、仏徳山入口を経て京阪宇治駅に戻ってきました。駅近くの中華料理店において、またも盛り上がりました。

次回も川口士郎氏の企画で、十一月以降に実施される予定です。

写真は天ヶ瀬ダムを背景に撮影

和三十四年卒)に冠動脈治療のご経験からご提案いただき、主治医(京大医学部附属病院、心臓循環器)の田村俊寛先生(カテーテル治療では日本で五本指にはいる)に心臓病治療法(循環器内科、外科)および心臓病と食事内容やストレッチとの関連などについてご講演戴けるようお願いしています。

「健康セミナー」の日時等未定ですが、ご案内の際は是非ご参加戴きますようお願い致します。

地域別活動推進委員会報告  
平成十六年度までに、応化会関東支部並びに東海支部が結成されたのに続き、中国・四国支部の結成に向けて準備を始めました。

地域別活動推進委員会の討議に先立ち、広島県在住の四名の会員に、地区懇話会・懇親会世話人会の人選方法、準備委員会の時期と場所、支部総会内容などについて御意見を伺っています。今後は九月十日(土)に開催予定の地域別活動推進委員会において、支部結成に向けての検討を行います。

会員の皆様には、どうかよろしくご協力いただきますようお願い申し上げます。

「健康セミナー」の開催  
「健康長寿」と題して応化会ニュースに投稿させていただきましたが(実は、編集委員の先生から業務命令と言われて)、  
「健康」につきましては、大先輩会員から比較的若い会員まで共通のキーワードであると思っています。そこで、今回は上原正巳氏(昭和



写真は天ヶ瀬ダムを背景に撮影



# 応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科と化学生物工学科の二学科から成り、合わせて二十九名の専任教員が在籍しています。本年三月をもちまして応用化学科の松田十四夫教授と化学生物工学科の菊池正和教授が定年により退職しました。

一方、今年度は新しいスタッフとして、化学生物工学科に笠原賢洋助教をお迎えしました。また、応用化学系二号助手として、昨年より活躍いただいている平林博樹先生に加えて、四月から、松宮芳樹先生と矢野成和先生が着任しております。



笠原賢洋先生

## 新任の先生から一言

本年四月より理工学部化学生物工学科に助教としてお世話になっております。専門は植物分子生物学、生化学です。これまで、シアノバクテリア、コケ植物、種子植物を材料に、これらの生物が、光に対して応答するために重要な分子や光受容体について研究を行ってきました。今後はこれまでの研究を進展させ、光受容体の詳

細な解析、応答に至るまでの細胞内のシグナル伝達機構の解析など、植物が環境変化に応答するメカニズムに関して研究を行ってきたりと考えています。一方、新しい研究も模索していきたいと考えています。研究室では、学生が植物科学研究の面白さを感じられるような指導を心がけたいと思っております。

また、化学会の皆様には、今後いろいろな面でお世話になることと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 略歴

一九九三年三月 東京工業大学理学部生命理学科卒業  
一九九八年三月 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了  
一九九八年四月 日本学術振興会特別研究員

二〇〇〇年七月 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所非常勤研究員  
二〇〇三年三月 東京農工大学遺伝子実験施設助手  
二〇〇五年四月 本学着任



平林博樹先生

昨年四月、応用化学系に二号助

手として就任いたしました。専門は生物化学で、光合成を行う細胞の集光器官の色素およびタンパク質の解析を行うことにより、植物とは別の戦略で進化をした集光器官のメカニズムの解明を行ってき

ました。本学に着任してからは、光合成細菌の集光器官をより詳細に研究するために集光器官を細菌より取り出し、それを再構築するといったことを行っています。さらに宿主を細菌にとどめず、シロロザと言う雑草中に特異的に存在する色素複合体タンパク質の解析も同時に行っています。まだまだ未熟者を痛感しておりますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

略歴  
一九九七年三月 岡山理科大学工学部応用化学科卒業  
一九九九年三月 岡山理科大学大学院工学研究科修士課程修了  
二〇〇四年三月 大阪府立大学大学院理学系研究科博士後期課程修了 博士(理学)取得  
二〇〇四年四月 立命館大学理工学部応用化学系二号助手

◆ 本年四月より応用化学系に二号助手としてお世話になっております。専門は酵素工学、生化学で、耐熱性酵素サモライシンの自己分解とその安定化に関して研究を



松宮芳樹先生

構成する構造多糖の多くは難分解性で他種多糖と複合した状態にあるため、これまで有効利用された例はほとんどありません。人間活動の高度化にともなう資源枯渇と環境変化に対応するための方策の一つとして、これら未利用の多糖類を再生産可能な新規生物資源(バイオマス)と考え、微生物機能を巧みに活用したさらに高度な利用法の開発を目指します。

◆ 本年四月より応用化学系で二号助手としてお世話になっております。専門分野は応用微生物学で、現在、複合難分解性多糖類の利用に関する研究を行っています。生物体を

略歴  
二〇〇〇年三月 立命館大学理工学部生物工学科卒業  
二〇〇二年三月 立命館大学大学院理工学研究科博士課程前期課程修了  
二〇〇五年三月 立命館大学大学院理工学研究科博士課程後期課程修了 博士(工学)取得  
二〇〇五年四月 立命館大学理工学部応用化学系二号助手

◆ 本年四月より応用化学系で二号助手としてお世話になっております。専門分野は応用微生物学で、現在、複合難分解性多糖類の利用に関する研究を行っています。生物体を

# 出番！いきいきシニア

能田 幸生

(昭和三十九年卒)



た社会への大きな恩返しになると考えました。

そこで、経産省が全国展開していた中小企業経営サポート事業に参加し、つばさに中小企業の実態に触れ、私たち企業卒業生が有する知的財産を活用する場のあることを実感しました。

しかし、個々の企業卒業生が持つ知的財産のみでは、如何に中小企業といえども十分な支援を生得ないことも事実です。そこで、企業卒業生を集合させた総合力が非常に有効であることが分かりました。さらに同じ思いを持っている企業卒業生がいるもの、その活動の場が用意されていないという現実もありました。

そこで、ボランティア思考で、かつ、企業卒業生が持つ知的財産で社会貢献をしたいとの思いを同じくする仲間を募り、平成十五年末に中小企業を対象にした経営支援型の「NPO法人トータルサポート21」を十八名で立ち上げました。

現在は、三十一名の仲間とともに地道な支援活動を展開させてもらっており、ここに集う仲間達の社会貢献に対する達成感を創造する場になりつつあることを実感させて貰っております。

私たちが会社社人生活で得た知的財産を、現在活動中の社会に活かす事が出来れば、これはとりもなおさず、我々を育ててくれ

## 事務局だより

健康セミナーの開催については、応化会のホームページを御参照下さい。

ホームページ・アドレスはページ右上に記載しております。

### 応化会事務局

受付 火・水・金 十時～十六時半  
電話 ○七七-五六一-二六五八  
FAX ○七七-五六一-二六五九

### 平成十七年度年会費納入のお願い

平成十七年度年会費(平成十八年三月三十一日迄)二千円を納入下さいませようお願ひ申し上げます。過年度分の会費の納入未納人に関係なく平成十七年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいませようお願ひ申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封していただきます。平成十七年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注：平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。)

## 物故者

平成十六年九月一日から平成十七年八月三十一日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

- |       |         |
|-------|---------|
| 奥田 秀雄 | (昭19年卒) |
| 福井 恕  | (昭22年卒) |
| 石津 擴  | (昭23年卒) |
| 杉村 成夫 | (昭23年卒) |
| 林 芳典  | (昭23年卒) |
| 香村 浩  | (昭25年卒) |
| 吉田 巖  | (昭27年卒) |
| 井上 健二 | (昭27年卒) |
| 鹿野 敏夫 | (昭27年卒) |
| 木村 明  | (昭27年卒) |
| 筒井 武雄 | (昭27年卒) |
| 八田 常一 | (昭28年卒) |
| 萩野 健児 | (昭30年卒) |
| 大沢辰之助 | (昭30年卒) |
| 大脇 広司 | (昭31年卒) |
| 妹尾千代三 | (昭33年卒) |
| 矢部倉一郎 | (昭35年卒) |
| 小松原 勤 | (昭36年卒) |
| 横山 泰雄 | (昭36年卒) |
| 岡崎欽一郎 | (昭37年卒) |
| 角 晴正  | (昭37年卒) |

(敬称略)



応化会2004年度（平成16年度）事業報告

I. 諸事業

1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布	2004年4月
2) 立命館大学化学科出身の役職者交流会	2004年5月9日
3) 応化会第8回総会	2004年6月19日
4) 応化会創立20周年記念祝賀会	2004年6月19日
5) 応化会創立20周年記念誌発行	2004年6月18日
6) 2004年3月卒業生名簿作成	2004年11月1日
7) 応化会ニュース（第22号）発行	2004年11月1日
8) 全会員への通信、会費請求	2004年11月1日
9) 在校生ソフトボール大会	2004年10月17日
10) ゴルフ懇親会の開催	
・第13回	2004年10月30日
・第14回	2005年3月26日
11) 徒行会の開催	
・第9回	2004年5月8日
・第10回	2004年12月4日
12) 卒業記念パーティー	2005年3月20日

II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2004年4月25日
・第2回	2004年11月6日
・第3回	2005年2月13日
2) 常任幹事会	
・第1回	2004年7月25日
3) 企画運営委員会	
・第1回	2004年11月6日
4) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2004年8月7日
・第2回	2004年9月12日
5) 地域別活動推進委員会	
・第1回	2004年10月8日

III. 支部活動（関東支部、東海支部）

1) 関東支部総会、講演会、懇親会	2004年11月13日
-------------------	-------------

2004年度（平成16年度）応化会決算

(単位：円)

一般会計	予算額	執行額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>		
一般会計		
前年度繰越金	912,418	912,418
会費(一般)	2,300,000	2,215,200
会費(学生)	2,200,000	2,050,000
寄付金	250,000	202,000
雑収入	5,000	6,018
合計	5,667,418	5,385,636
<b>&lt;支出の部&gt;</b>		
総会開催費		
総会開催費	800,000	821,120
事業等補助金	200,000	189,000
地域別活動推進費	300,000	179,456
会議費	200,000	274,425
印刷費	800,000	921,585
郵送費	1,500,000	1,580,220
人件費	500,000	408,420
事務局費	50,000	49,912
雑費	100,000	6,000
提出金(特別会計へ)	0	0
提出金(連絡協議会へ)	110,000	100,000
在学生生活活動援助費	200,000	200,000
振込み手数料	100,000	56,495
予備費	807,418	569,675
合計	5,667,418	5,356,308
次年度繰越金		29,328
<b>特別会計</b>		
<b>&lt;収入の部&gt;</b>		
前年度繰越金		
前年度繰越金	6,364,734	6,364,734
提出金	0	0
名簿売上	10,000	0
名簿荷造送料	10,000	0
雑収入	1,000	0
合計	6,385,734	6,364,734
<b>&lt;支出の部&gt;</b>		
名簿出版費		
名簿出版費	0	0
名簿荷造送料	50,000	340
創立20周年記念誌発行費	1,000,000	845,440
創立20周年記念誌送料	300,000	366,182
人件費	500,000	472,160
事務局費	200,000	106,135
予備費	4,335,734	407,960
合計	6,385,734	2,198,217
次年度繰越金		4,166,517

応化会2005年度（平成17年度）事業計画

I. 諸事業

1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布	2005年5月
2) 2005年3月卒業生名簿作成	2005年5月～
3) 在校生ソフトボール大会	2005年10月
4) 応化会ニュース（第23号）発行	2005年11月1日
5) 全会員への通信、会費請求	2005年11月1日
6) 卒業記念パーティー	2006年3月22日
7) ゴルフ懇親会の開催	
・第15回	2005年10月22日
・第16回	未定
8) 徒行会の開催	
・第11回	2005年6月4日
・第12回	未定
9) 健康分科会の企画	未定

II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2005年6月12日
・第2回	未定
・第3回	未定
2) 企画運営委員会	
3) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2005年7月31日
・第2回	2005年9月11日
4) 地域別活動推進委員会	2005年9月10日
5) 名簿管理委員会	2005年8月27日

III. 支部活動（関東支部、東海支部）

未定	
----	--

2005年度（平成17年度）応化会予算

(単位：円)

一般会計	予算額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>	
前年度繰越金	
前年度繰越金	29,328
会費(一般)	2,300,000
会費(学生)	2,050,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
合計	4,634,328
<b>&lt;支出の部&gt;</b>	
総会開催費	
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	700,000
会議費	200,000
印刷費	700,000
郵送費	1,000,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
提出金(特別会計へ)	0
提出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生生活活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	784,328
合計	4,634,328
<b>特別会計</b>	
<b>&lt;収入の部&gt;</b>	
前年度繰越金	
前年度繰越金	4,166,517
提出金	0
名簿売上	10,000
名簿荷造送料	10,000
雑収入	1,000
合計	4,187,517
<b>&lt;支出の部&gt;</b>	
名簿出版費	
名簿出版費	0
名簿荷造送料	50,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	3,437,517
合計	4,187,517